



関ヶ原軍記

三編 壹

貳

遠 13
2207
31



德川十五代記 編

春雨文庫

編 敵討 甚野權三代記全部十五冊

近世記聞

編 明治太平記 全

開明 小説 鳥追於松實錄 五十

參考 肥長 鹿見嶋士傳

編

説 珍 夜嵐實記 全

此書たゞや出軍士卒の日記或は戦地より歸京せし探偵人等の説話より因り西國証討の如きと詳細せし第一の實録なり

近世 松村春輔著 櫻田實録 全

近世 小倉青木實記 全部 近日出來
這は德川家の旗本小倉藤太郎小倉藩長吉昌長谷川春精下事奇暴借強談の悪事青木の奥方艱難心苦と記し實録の及ぬ綴りたれは近世の珍書なり

東京牛込細工町

誠光堂

池田屋清吉謹白

書物 繪入 貸本所

關ヶ原軍記三編惣目錄

池清 卷之七

一 藤堂仁右衛門

内府公乃

御前より通^{あつて}色申^{ひき}開きの事

并仁右衛門高房名譽之事

一 大谷大學頭が兵共残り女を子落去事

十市縫殿助 大學頭以諫^{よまら}て關ヶ原に出交^{いで}



卷之貳

一 石原峠合戦之事

并大谷大學頭大軍と切抜ヶく

越前敦賀に洛儿事

一 十市縫殿助猛勇敵討事

并十市無類大忠臣始終之事

卷之三



一 嶋左近主人石田三成戦励事

事

并左近友之軍配之事

一 嶋津勢勇猛田中吉政打破事

事

并石田勢合戦之事

卷之四

一 蒲生大膳勤身ふたにん しんみの事

并 本多忠勝もとむか ちゆうとく猛勇まうゆう討う頭あたま一ひとて

大膳おほにん討う取と事こと

一 蒲生備中ふたにん びゆうちゆう討う先まへ之の事こと

并 石田三成いしだ さんせい大軍おほいぐん細川ほそがわ誓ちか事こと

追立おひだて事こと

卷之五

一 本多忠勝もとむか ちゆうとく難戰なんせん之の事こと

并 出雲守いづみののり忠朝ちゆうちゆう無双むすう乃の勇力ゆうりき討う頭あたまハ

事こと

一 嶋左近しま さしげ勇猛ゆうまう一人ひとり敵てき討う頭あたま事こと

并 石田方いしだかた關東くわんと乃の諸軍しよぐん追立おひだて事こと

事こと

卷之六

一 嶋左近敵無事に仍て本國對馬に
歸ん事

并 毛利一家南宮山に屯する事

一 後藤又兵衛見切りの事

并 桐間兵庫忠臣律義之事

卷之七

一 後藤又兵衛藤子川先陣の事

事

并 桐間兵庫同く川渡りの事

一 小西黒田の兩勢川中合戦の事

并 又兵衛基次勇猛小西清左衛

門を討取事

卷之八

一 黒田山内乃兩勢小西行長と戦ふ事

并小西勢敗軍之事

一 加藤嘉明嶋津乃猛勢戦
喰留ル事
并根メ丹波討死之事

卷之九

一 嶋津勢松平下野守殿乃勢と戦ふ事

并井伊直政忠吉卿と救ふ事

一 忠吉卿井伊嶋澤三銘と松浦

三郎兵衛討取事

并嶋津義弘勝軍由旗本に棄込事

卷之拾

一 西國勢惣敗軍と成ル事

并 嶋津家の新納武藏守討

死之事

一 嶋津兄弟問答之事

并 嶋津中勢太輔舎兄兵庫頭

戦所事

卷之拾壹

一 嶋津義弘弟中勢之別事

并 嶋津勢落足福嶋金吾の勢

戦打破事

一 嶋津義弘捨状戦残して關東

勢の追討を止む事

并 嶋津家久忠勇戦死之事

卷之拾貳

一 御本陣えんぼんに諸將しよしやう勝軍しよぐん御禮ごらい之事こと

并本多もとた 榊原さかき 御賞ごしょう美み事こと

蒙もうむ儿に事こと

一 内府公うちふろうこう 井伊直政いゑのちか乃の手て疵きず事こと憂うれひ

給たまふ事こと

并 源君げんぎみ内仁うちにしん言こと諸將しよしやう屈伏くつぷく之事こと

卷之拾三

一 井伊直政いゑのちか一番合戦いちばんがっせんに極きま中ちゆう事こと

并金吾秀秋きんごしゆあき 御目見ごめみ佐和山さわやま

の討人うりて事こと 命いのちせららるる事こと

一 家康公御陣かえんこうごえん營えいに於おて諸倍臣しよばいじん事こと

御饗應ごきやうおん之事こと

并手て棒ぼう作さく左衛門ざゑもんの事こと

卷之拾四

一 立花宗茂大津の城攻拔事

并 嶋津義弘武勇絶輪攻顯して

歸國之事

一 若狭少將臆病之事

并 佐和山籠城上田東雲齊軍

配之事

卷之拾五

一 佐和山城追平搦平合戦之事

并 石田三成の臣長谷川忠兵衛返り

忠之事

一 佐和山落城石田乃一家残らば

討死之事

并 上田東雲齊城中と立退事

卷之拾六

一 真田昌幸父子三人密談之事

并信幸理越述て父弟を關東の

御味方と計る事

一 幸村義言父子兄弟敵味方と別る事

并秀忠卿御進發信州大

河二御着陣之事

卷之拾七

一 真田昌幸偽つて

秀忠卿に欺身奉る事

并中納言殿御憤り甚毒事

一 安房守諛報を以關東勢と偽引交

并柳原康政老切思意酒井牧野

城兵追討んと進む事

卷之拾八

一 信州上田合戰之事

并酒井左衛門尉討上田關東勢
敗軍之事

一 榊原康政

秀忠卿

御諫言之事

并關東勢再度上田城取詰之事

卷之拾九

一 上田城二度目合戰寄手敗亡之事

并真田父子御旗本に切込に相引
之事

一 濃州より此御使者上田乃御陣に

來ル事

并榊原康政先陣上田街道に押通事

卷之貳拾

一 神君御陣と三井寺に居給ひ

諸將陣取之事

并 神君御父子御對顔之事

一 石田三成郎等三騎に別る事

并 三成諸所に隠れて流浪難流す

忍ぶ事

卷之廿壹

一 星野典二郎太夫 石田治部少輔に

訴ふ事

并 田中兵部太輔 三成に召捕す事

一 石田三成三井寺御陣に於て禁獄中

大言吐事

并 井伊直政利害三成納得之事

卷之廿貳

一 淳田中納言秀家漂泊之事

并進藤三左衛門大忠謀略之事

主人秀家越落之事

一 淳田秀家薩州下りて嶋津と

頼む事

并嶋津義仍秀家越く事

卷之廿三

一本多三彌忠勇申開きの事

并嶋津父子再三秀家乃命乞

神君御美諾之事

一 洛中乱妨狼藉越御制禁之事

并伊奈備前福嶋刑部喧嘩

之事

卷之廿四

一 三條橋ちうぶら詰むす大喧嘩おほいそ之事

并伊奈備前守橋詰むす引退ひきぞく之事

一 井伊藤堂の両將まさり正則の陣に

來き事

并直政なほ福嶋ふくしま戦いくさ看みむ事

卷之廿五

一 福嶋正則三井寺に強訴がうそ之事

并秀忠ひでただ卿福嶋の討人うりて戦

願ねがわす事

一 伊奈備前守福島ふくしまの陣がらに入いり

忠死ちゆうし乃事

并正則まさなり怒いかり死して三井寺さんせいじに出仕でし之事

卷之廿六

一 福嶋正則行状忍送之事うぶまきりょうごうでいりやまき

并 神君御遺状御明智神かみきみごのしるしごのあきしん

お通おと事こと

一 安藝の廣嶋は二代あききのひろしまはにだい

將軍家ヨリ御上使之事しんぐんけよりごじょうしじのこと

并 福嶋家断絶之事ふくしまけだんぜつじのこと

卷之廿七

一 小西攝津守行長相川村こにしせつしゆしゆりやうさうがわむら忍しの

事こと

并 林藏主行長はやしざうしゆしゆりやう生捕なまとり事こと

一 安國寺生捕やすくにんじやうなまとり成なり事こと

并 長曾我部宮内少輔ちやうそがべみやうないしやうぼう關東かんとうに

降くだり参まゐ之事じのこと

卷之廿八

一 長束召捕とら九こ氏家逐電とら之事こと

并毛利輝元降くだ忝かたじけなく增田長盛落おち

着か之事こと

一 御譜代衆大阪おさか亡ほろ事こと

并な初はつめ奉たて事こと

神君御遠謀御名言之事こと

卷之廿九

一 大阪城中評定片相理言ことば述の事こと

并な市正伏見ふし使つか郎らう

秀忠御念頃片相あ御所望ごしょぼう之事こと

一 片相且な御目見ごめみの事こと

并な且な元智辨ちべん三ヶ條さんかじょう申まを聞きの

事こと

卷之三拾

一 神君逆徒^{まゐり}大坂^{おさか}引渡^{ひき}さう事^{こと}
并石田^{いしだ}と始^{はじ}り六條河原^{ろくじょうがわら}に於^おて刑^{けい}罪^{ざい}に
行^{おこ}り事^{こと}

一 神君大坂城^{おさかじょう}に渡^と御豊國大明神^{みゆたかのみやしろ}に
御寄附^{みよきつけ}之事^{こと}
并外様^{とさま}御譜代衆^{みふだいのしゅ}に御軍賞^{みぐんさう}之^の事^{こと}

卷之世売

一 金吾秀秋^{きんごひであき}入部^{いりべ}之事^{こと}
并金吾家^{きんごけ}亡^な靈^{たま}乃^の為^{ため}に家^け断^た絶^つ
之事^{こと}

一 加藤^{かとう}式部^{しきぶ}太輔^{たふ}明成^{あきなり}之事^{こと}
并堀^{ほり}主水^{ぬすみづ}が亡^な靈^{たま}乃^の為^{ため}に明成^{あきなり}
領地^{りやうち}と差^さ上^あル事^{こと}

卷之世貳

一 加藤明成かとうあきなり夏堀なほり主水しすい次つぎ騨はな騨はな弒ころ殺ころす

の事

并な主水しすいが怨靈おんりょう加藤家かとうけを潰つぶす事

一 真田伊豆守まのうぢいづのまもりに上田城かみのぼろの討人うらて次つぎ

命いのちせらぐ事

并な信幸のぶゆき孝心しんこうしん親弟おやぢに命乞いのちごの事

卷之世三

一 真田伊豆守まのうぢいづのまもり上使かみつかいより上田かみ

城しろに入來いりきた之の事

并な真田昌幸まのうぢまさゆき父子ふち開城ひらき之の事

一 上杉景勝かみすぎかげかつ上洛かみらく之の事

并な上杉佐行かみすぎさゆき減高へんかう蒲生かみうぶ武田たけだ

をを出い出い事

卷之世四

一 家康公ウチヤマトウ 上杉家ウエノエ に入御之事イリミギノコト
并御餐ミツメ 應乃席オウノセキ 直江兼続ナカエノキムネ
大膽之事オウダンノコト

一 内府公ウチウラノキミ 直江山城守ナカエノシラキ の心膽ココロイデ 試シ
らちり子コ 給タマフ 事コト
并大佛殿オホツツミ 再度また 焼失ヤクシ 之事コト

卷之世五

一 德川家康公トクガハノウチヤマトウ 是將軍シラキ
宣下センカ 之事コト

并朝鮮人チョウセンノヒト 來朝キタウラヒ 之事コト

一 大坂關東オホサカノカント 御威ミイ 光輝ミカヒ 之ノ 事コト

并井伊直政イヱノナカマサ 大病オホヤマイ

神君御見舞カミキミノミマヒ 成ナリ 事コト

卷之世六

一 井伊直政乃遺言さいごん

神君汝諫め奉りて病死之事

并加州家乃老臣太田但馬守之事たぢまのまもり

一 家康公神妙の御遠謀御隠居之事えんきょ

并ひて木乃忠公は將軍

宣下之事せんげ

三編

惣目録 大尾



関ヶ原軍記三編卷之三

目録

一 藤堂仁右衛門 内府公の

所前之通^{あつむ}色中^{あつむ}宗^{あつむ}三^{あつむ}の事

并仁右衛門の^{あつむ}名^{あつむ}譽^{あつむ}の事

一 大谷大學頭^{あつむ}の^{あつむ}勢^{あつむ}強^{あつむ}か^{あつむ}れ^{あつむ}る^{あつむ}事

并十市^{あつむ}権^{あつむ}殿^{あつむ}の^{あつむ}事^{あつむ}及^{あつむ}て^{あつむ}大^{あつむ}學^{あつむ}院^{あつむ}

園ヶ原は打出の事

池清

園ヶ原軍記三篇卷之七

及臺仁衣場内府公乃

御前之通色中兵子の事

并仁志事高房急急の事

曰く若前号或編の二十卷及臺仁

右邊取の取手湯漢又助を討とす

御本陣は陽り主人高虎と修し

源君^{かえ}之^し御目見^み一^は成^{なり}成^{なり}
家^{いへ}康^{やす}公^{こう}御^ご感^{かん}有^あ之^し以^も往^ゆ之^し下^{くだ}さる
却^{かへ}之^し又^{また}大^{だい}言^{ごん}大^{だい}学^{がく}既^{すで}に石^{いし}系^{けい}時^{とき}と
引^ひ来^きりてお^お致^ちし^し又^{また}より布^ふ衣^い
執^{しつ}前^{ぜん}に退^{たい}去^そす^す家^{いへ}長^{ちやう}十^{じゅう}市^し經^{けい}殿^{でん}外^{ぐわい}
が働^{はたら}き^し万^{まん}人^{にん}千^{せん}得^{とく}れ^り後^ご年^{ねん}系^{けい}
却^{かへ}之^し任^{にん}居^ぐし^して^て右^{みぎ}陣^{じん}を^をと^とせ^せり
扱^あこれ^れより^りの^の小^こ物^{もの}と^と是^{こゝ}に^に回^{まわ}り^り細^{こま}

川^かお^おが^が合^あ致^ちと^と成^{なり}り^り
去^き程^{ほど}も^も及^{およ}ば^ば臺^{たい}修^{しゆ}渡^わき^きる^る虎^こを^を家^{いへ}
長^{ちやう}仁^{にん}衣^い場^{ばう}の^の高^{たか}房^{ぼう}と^と百^{ひやく}位^ゐ
内^{うち}府^ふ公^{こう}の^の御^ご前^{ぜん}に^に出^でる^る大^{だい}言^{ごん}刑^{けい}
約^{やく}少^{せう}博^{はく}が^が家^{いへ}人^{にん}湯^{たう}漢^{かん}大^{だい}助^{すけ}成^{なり}初^{はつ}
家^{いへ}来^き仁^{にん}衣^い場^{ばう}の^の事^{こと}討^{うち}た^たり^りと
云^いふ^ふと^と其^{その}の^の時^{とき}
神^{かみ}君^{きみ}作^{つく}ら^らる^る湯^{たう}漢^{かん}大^{だい}助^{すけ}を^を北^{きた}西^{せい}

つ乃^{あが}是(の)のの^いて^て殊^く老^ら切^き
の^の常^{じょう}士^しあり^り定^{じやう}め^めて^てる^る虎^この^の自^じ分^{ぶん}
此^{こゝ}る^る急^{きゆう}ぬ^ぬえ^え—[—]その

上^{じやう}意^いち^ちあり^り休^{きゆう}海^{かい}書^{しよ}や^やし^しけ^けら^らる^る
い^いや^やき^き振^{しん}子^しい^いゆ^ゆり^りに^に志^し事^じの^の
ら^ら中^{ちゆう}ま^まあ^あび^びさ^さ—[—]と^とお^お割^{わり}ぬ^ぬる^るが^が
ら^ら休^{きゆう}ゆ^ゆり^り—[—]新^{しん}—[—]そ^そお^おど^ど海^{かい}を^を
ゆ^ゆと^と上^{じやう}噴^{ふん}方^{ほう}子^し—[—]車^{くるま}—[—]ら^ら故^こ

内^{ない}府^ふ公^{こう}その^{その}の^のさ^さと^と御^ご実^{じつ}授^{じゆ}振^{しん}り^りま^ま
き^き—[—]と^とさ^さあ^あら^らい^いま^ま—[—]錫^{しやく}れ^れま^ま
無^むり^りけ^けり^りこの^{この}時^{とき}

内^{ない}府^ふ公^{こう}の^の上^{じやう}意^い子^しの^の志^し—[—]を^を
大^{だい}谷^こが^が首^{くび}に^にあり^り新^{しん}と^と志^しる^る庵^{あん}
ま^まる^るり^りと^と仁^{にん}志^し事^じの^のを^を
百^{ひやく}出^{しゅつ}され^れる^る湯^ゆ尋^{じん}ね^ねあり^りる^る房^{ぼう}
り^り—[—]と^とら^らら^らぬ^ぬる^るや^やど^ど又^{また}物^{もの}が^が

存命しもしゆりてまじ約束紙
爰替と申事毛有べくしゆ替
その者の死後りしりて手
拙りせんとして今さう吉隆が
そと申事破ひりし衣の立所
紙仕ゆとも善通りみりぬり
中さうぶい骨士と骨士が一言の
云禁物定ま変して爰中る爰

よつとゆとゆ言一紙中ふたりこの
時より虎人まのり押と紙をたる
根子として恙事先ぬが無息の
荒るるありとらつてくまらり
速惑心紙されたり
内府公も是と申す百て大い
午感ト 名しぬと頭
奇特ぬるぬりのうれ友堂衆

将人の家より一巻と稱す
をきりあり候へ仁志事つ
る巻とぬあめんがくとやど
りり

大谷大学既が志多き落きり
并十市経度外大学既を練りて
園ヶ原一門返す

叔母大谷吉隆の嫡子大谷既
次冨木下山城守等の石原清の
所あるに二子余騎の志お随
が候へを居りりりりり
に志をとりお鏡炮の音無叫び
れり急おむりりりりりり
りりりりりりりりりりりりり
親戚如く一りりりりりりりりり

大學既見書^{えんご}を紙^しより^り爰^{こゝ}も大^{おほ}言^{ごん}
が衆^{しゆ}を費^{つぎ}一^{いつ}の^のもの^{もの}として大^{おほ}和^わの^の國^{こく}
よりい^いで^でさ^さり^りし^し十^{じゆ}市^し經^{けい}殿^{てん}外^{がい}
車^{くるま}は陣^{じん}に^に有^あり^りし^しが^がを^をみ^み出^だす^す
これの^の必^{ひつ}定^{てい}金^{きん}各^{かく}秋^{あき}も^もお^おが^がら^ら
切^きせ^せし^しに^にま^まご^ごれ^れる^るの^の一^{いつ}角^{かく}の^の
由^{よし}お^お讀^{よみ}し^しる^る及^{およ}ぶ^ぶま^まご^ごの^の父^{ちち}君^{きみ}の^の題^{だい}
は^はあ^あら^らん^んの^の工^く丈^{さか}の^の入^いる^る

倉^{くら}記^きや^やい^いま^まぎ^ぎ引^ひ返^{かへ}し^して^て討^{うち}死^し
し^しの^のま^まご^ごれ^れる^るの^のま^まご^ごれ^れる^るの^の執^{しやく}事^じ
御^ご及^{およ}ぶ^ぶま^まご^ごの^の張^{ちやう}り^り居^いる^る
り^りあ^あら^らん^んの^の衆^{しゆ}人^{じん}衆^{しゆ}僕^{ぼく}お^おも^もも^も皆^{みな}是^{これ}
本^{ほん}必^{ひつ}ち^ちあ^あら^らん^んの^の道^{みち}
を^を能^{あた}く^く是^{これ}て^て題^{だい}の^の時^{とき}を^を遊^{あそ}
走^{はし}る^るま^まご^ごの^の目^めの^の前^{まへ}あ^あら^らん^ん
る^るを^を軍^{ぐん}法^{ぽう}ま^まご^ごの^の級^{ぐい}地^ちま^まご^ご

ありこのやうなるところ
陣とえらるゝは佐一の及まじ
ちらうおもむいたく陣と張が
よきなり去程大谷大守
を衆をの十市維度助が練り
ふたごがひり返まへまにお極
まりては難を返せし時此さび
軍士とされくありし程

ののどもい大さうりまさら
何とやん敵軍はらう身なり
まりや大おのまゝもくぞ
やいざしくと歌もる子樹
乃筋と執前乃圓と遊り
くくたどめ三子余騎と味一
軍会も今いまややり
目ごろ懸顔乃のども徳士彼

これ又百余人のこゝろなり、又よ
大宇路が乳人千橋本久七郎
とりのりあつたは、若く来りく
中の下地三子の軍会より、
さく冥東北大軍よりあり
難あり、満てや、只今又百
余人をとりく、くぞり、
これぬえ、さや、そのくび、
限り

多ら、以、運命、よ、そ、も、ゆ、り、
大極城を、と、ど、め、て、
これ、城、よ、さ、武、骨、を、建、者、の、
も、り、又、城、若、此、の、ど、も、
父、君、刑、部、少、輔、及、内、仁、徳、
りの、多、く、あ、り、
ま、り、に、
撤、去、り、せ、ん、
安、言、を、

らんぜふよりと理をつく
てゆわくを大學院を此
ころりも考くいつぐいせん
ゆわ時十市経殿助を大
にこれきりつこの命れり
条あつり母ひりつ軍法有
くゆ末十ぶん千業羅
と多くをとりて師父きみ
の急

難事なりそれをとらち推く
款のそいつらと見え
あけけりるゆへとや
それがいまうせと多く又行
りどもその切りの奴から
出ゆく是事き人その裏切
れ大おをばそれけり討あ
りむべふやと或百余人を志

かくく先トん千はさみ石
りし時をさちおろしきし
大學政も是と時より實に
りともありとて急角一戦
してありさくとも安らる人
しとく二百余人増陣り
續けを却合入百餘人
石原時をさちおろし

今又秀秋并びよ朽木 秋月
親板おと執うらんとは道
了純よりなり

池清

實ヶ系軍記二篇巻の一終 池清

池田

関ヶ原軍記二編卷之貳

目録

- 一 石原清公歿の事
- 一 并大谷大学頭大軍と切抜る事
- 一 前敷賀は落る事
- 一 十市縫殿助獲常敵と脱走を復
- 一 并十市大忠臣始終の事

油漬

関ヶ原軍記三編卷之貳

石り〜とみ御合あ戦いくの事

并大谷おほ大学頭だいがくづ大軍おほと切抜きりけて
執前と敦と登がへる事

曰く大谷おほ大学頭だいがくづ軍い合あ戦いく石原いし原はら時とき
へ引下ひりし時とき千ち実まこと束むすのの徳とく軍い勢せい
押おししけけ〜お致いた〜十じゅう市し經けい度ど

助 秋月七席と討あり大谷が
去士存しとくく退きん
十市ハ浪くして居武名
一郡く勝友進をいそ紀中
むく一季度一度子川
しと執しと娘むり織田金
本田中 穂子 古田 新執あり
石田が先手と扱み執あり

兵書ふりくく目前く重
銀賞録城場りつとそも是
がとあり一心を執る
培ろふ介辞の忍れ有と
りつとも若く一心を執る
きんら色た長れり
是制ち十市維殿助が更
形り凡人るるこの迷

おろしきうらみきき去ればその
人の今もそのも貝おの金銀
地獄ごく人地獄くろく行
るもそのも魔女志くぐひ
安し此時千一息をその
初うざる振くきくさるゆ
ゆりき及事ゆきくさる時の
破るひりぬ重宝くそのもを

地奪りるゆきくさるゆ一
の丈夫事ある復るゆりゆり
うしりゆり斧鉞太刀お
をくく人ありゆりゆき
うきくゆり時ゆりゆ一
初うゆりゆり是か心魂魄
ゆりて又ゆりゆりゆり
細念人ゆりてゆりゆり

と知りあぐも大にあり
る愛と能き程もあると
人と結してこそと初
る利愛ぬるその必
を利欲に属さるるを
なまよるるなり近頃
千利及むるは仕
あり又町並の隣家と細工

修身人ありて朝夕心易く
出入りるに彼細工人
の来り耐手早くして愛皮
は下になるよやん隠
しびくちありよつと
見たりやとありよつと
来る毎に足せられよ
其時やと出に足せよ

一分と小判ありこれ金あり
るふとて隠しあやうき
時手彼のの言くこれ
拙者此細工ありうね
妙法無に成下され
いふ子の時彼町人あり
ところありうね
名人あり御下りこれ金あり

と足ありこれ竹やど
是りてお其ののち
ぬつ小細工人養くこれ
小判は百両と又百両と
中ありあり百両の内
中さほどいふあり
彼早人利欲起りて誰
人ありこれあり

此小判 金子ありて利を
多しんを度し即時之者よ
論り金百両取持集し
お渡しをよし以報り
此の時の御工人心為り
とて十日斗り付付り仕
中しきべしと交合し扱え
らり以後切度毎に彼のの

此細工 此の先の金子を
おきりしき 亦日斗りも
さくらり或日けり 彼の細工
とて中中ら官より彼者養へて
委細なるんそのうち仕
りんとらりて次者より日
也して亦持あくらり
毎日せらむり末ら大それ

と名換板して又々あんの
細工のちりや官板被町人
も根えを似せ金を頼るは
ちりやちりや被細工の莫
ありといふ時ちり細工人を
申す念息を大言こそ人の
笑けがにき度の内頼ると
いふ似せ金と申といふ時直

手と南く群るあぐりの
町人をは妙法とこれ限り人
手あつての官ちりやとて
立寄り終る子の以後僕僕
も形にむさくくと小判
百両取らるるのちりや
發揚しるるの初なる
ちりや根の難くをるる

金^まこく今日^{けふ}此^{こゝ}上^のもも^もあ^るる
ありこころの時^{とき}く^るく^る何^{なに}
種^{しゅ}乃^の車^{くるま}之^のや武^ぶ骨^{ぼね}れ^た丈^{だけ}丈^{だけ}の
あ^る海^{うみ}舟^{ふね}のり^り十^{じゅう}市^し種^{しゅ}殿^{てん}外^{がい}
る浪^{なみ}人^{ひと}笑^{わら}苦^くして^も初^{はつ}り
ざら^ら心^{こゝろ}長^{なが}あ^り
去^さ程^{ほど}千^{せん}大^{だい}谷^や大^{だい}学^{がく}路^ろを^も手^て替^かえ
百^{ひゃく}余^よ騎^き釘^{くわ}貫^{くわん}の^し紋^{もん}身^みこ^らる^る

一^{いっ}流^{りゅう}を^もと^と風^{かぜ}千^{せん}難^{なん}く^くして^も石^{いし}系^{けい}
時^{とき}を^もお^お下^{くだ}ら^うる^る先^{せん}陣^{じん}の^し十^{じゅう}市^し
種^{しゅ}殿^{てん}助^{すけ}足^{あし}輕^{かろ}大^{だい}將^{しょう}之^の回^{わい}是^ぜ左^さ果^{くわ}の
橋^{はし}中^{ちゆう}久^{きゅう}七^{しち}席^{せき} 森^{もり}川^{がわ}福^{ふく}又^{また}廊^{らう}等^{とう}
次^{つぎ}始^{はじめ}め^めと^として^もま^まの^の種^{しゅ}地^ぢ次^じ括^{くわつ}へ
金^{きん}吾^{われ}の^の後^ごへ^を目^め的^{てき}と^して^も固^こ乃^の産^{さん}
を^も揚^あげ^りて^も冥^{めい}東^{とう}方^{ほう}此^{こゝ}と^とこ^ろの^の産^{さん}
金^{きん}吾^{われ} 秋^{あき}丹^{たん} 朽^く木^{ぼく} 板^{いた}等^{とう}の^の

めんく〜塔あ〜がせほ〜りと
お合く〜鎧炮決をわ〜りなを
この大將を〜大將と討取り今
に掃取〜り〜の軍を考その上
増源が新〜手如〜りおの〜
大學院が小將と見切〜く志中
千取込め討取れ〜とお〜り〜る
い〜と〜ひ〜り〜り〜天魔あり〜る

叶の庵兒と〜る〜く〜り〜り〜り
小十市隆慶助と主人大學院よ
中〜りの某〜先陣仕り〜たを
ち〜〜ひ〜中〜〜の条〜〜致〜ひ〜此
掃負〜〜搦〜ひ〜り〜切〜換〜け〜く
布〜必〜一〜筋〜玉〜木目掃〜千〜の岩
漸〜傳〜又〜師〜傳〜〜れ〜ば〜築〜城〜百〜具
〜〜〜〜ひ〜く〜敷〜架〜一〜筋〜迄〜あ〜

彼城を奪取す七ヶ所ありて
之城を以て法を以て此城根
を以て根の勢を以て時を
大坂の城に入りて在公仕ありと
初先乃て中やまでありて
二百余れを以て下知決つて
鏖たるを以て秀秋の陣
を突入あり今此の軍を以て
今此

より此報を以て得ん
在二万あり大軍あり
とて敗軍せしむ故人目
を恥しむとて高申し
んとすらふ大軍路が軍を
余人を以て強入あり
秀秋が志士おを免を
とてお致しあり山を

争ひありありそのうちには眼板
秋は織田等此西へ毛領より
名走まゝいひて雲東路の隘く
ありありあり攻まらるるあそび大谷
が兵士たのこ田是れあそびと始り
み十六人討死し雑人どもも
さんぐにるる今いづれ
兵士武三指騎雑兵はあそび

拾人斗りし討死されおのこ
争ひありありありあり木の間
時千石をり十市があそびえ
のどろく執事乃國一引きく
教習は城より入るるあり

十市は度助款中に常と長
并十市大志長始終の事

徳川の十市維度脚を来す一ヶ
所も手をと負むしと只今秋月
去つてちがさあへてたううひ
士年おさんぐくお奴く養
各々維度お十市の部多乱軍
此中少毛大おと討んとてあ
るるとあつて長門ちが合衆七
市士年く下知しとみりあへ

維度命系付て横抱平を
と組く門依終七市がそ
次討きてあつて平系あり
此時主人大学院を執前（？）
志りきくその人又吉隆の討
死を嘆く今これあつてあり
と馬と地多款中と合掛け
系部く走り来りて静まりて

のち浪人成し山科の道端に
茶屋をとりけし所を馬の寄り
つくり次男これをも賣しおわり
嫡子玄蕃とさや木を賣し
海世を成し父子三人言
りて終に父繼殿物も不
香花を手にけし亡主人の
あとも吊し一年しき度

主人吉隆はちとせし新
へ来りるまは流しとお島
け人乃武勇隠しおくして
享長十三年の頃尾別より
沸るぬありを
内府公乃御意し百出さ
り舟渡り甲斐とせん所
りりみの地を来りておさ

ぬる千知れり越したるさうさく
川くはるのち對めん一市
状と海は千維度外中の産
候と御免候りむりさく
んはらんのごく一年を起て
ゆはる知り又子石も産る
嫡子舌蕪と 御百出
下されさく一集一四仗志ふ四目

ふ掛べまおありとさくさく
りつわ列の利長より一石石
百候その御敏あ 悪田晴津
本よりもそれと産一石石の正
状あり候と皆清やさう増
て中危のち事あるとさくのこ
ら候引さる候事むがうり
查れ申うれとて兵をと書心

吾よりこの良清水甲斐と其
由包屋の娘とてあり此
まゝに経つてまゝの玄菟と同居
して尾州の忠臣とてまゝ
といふ時十市言へく子結
まゝ人をまゝの初めてありり
能く頼り入るありまゝ
至人刑部少輔千台とてより

一日行時も忘る中さほ二君よ
結ぶるまゝにあはれまゝ
人を免るまゝの妻を袖とてあり
くまゝの忠臣とてあり
ら及まゝの忠臣とて尾州へ又
子石をまゝの二子石とて
純州へ出たりまゝの十市
まゝの忠臣とて一生の忠臣と

其後父總屋物を洛中へ出く
 白雲居士として本食此白雲の
 翁と称して东山の奥に一生を
 吉隆が嶺を吊りひたり大坂
 陣の時分まで暮らして在り
 のがれ大道心大義の人の形
 是るん貴録有りてあり初るん
 大忠臣と徳人感づるなり
 池清

冥々原軍記三編卷の二終
 池清

